

両大戦間期知多地方における綿織物生産の統計分析

橋 口 勝 利

要 旨

愛知県知多地方の綿織物生産の全国的な位置とその製品、生産組織における特徴を明らかにする。すなわち、愛知県知多地方は、全国的に有数の綿織物産地であり、広幅白木綿に加えて小幅白木綿生産の比重が高かった。そして、その生産を支える生産形態としては、独立した力織機工場による生産に加え、問屋制家内工業や下請制による生産が広く普及していた。それは、知多産地綿織物業における産地問屋の重要性の高さを示すものである。

キーワード：産地綿織物業；問屋制家内工業；下請制
経済学文献季報分類番号：04-23；08-11；09-50

はじめに

本稿の課題は、統計書分析に基づいて愛知県知多地方の綿織物生産の展開を把握することにある。

周知のように近代日本は、紡績業、鉄道業、鉱山業などいわゆる近代産業部門を中心に産業革命を進展させていったが、その波は近世以来から各地域に根付いていた在来産業部門にも及んでいった¹⁾。その中でも産地綿織物業は、代表的な産業部門であり、とりわけ両大戦間期には、めざましい成長を遂げた。その成長の範囲は全国的な規模に及んだが、特に泉南地方、知多地方、播州地方、遠州地方が生産量において主要な産地とされた²⁾。

本稿では、以上のような産地綿織物業の発展史を踏まえ、統計分析により、都道府県別はその全国的地位や主力製品を明らかにすることを課題とする。なお、検討を進めるにあたっては、愛知県知多地方を取り上げていく。

-
- 1) 在来産業に関わる代表的研究成果としては、中村隆英編、『日本の経済発展と在来産業』、山川出版社、(1997年)を参照。
 - 2) 阿部武司、『日本における産地綿織物業の展開』、東京大学出版会、1989年。

以上の課題を明らかにするに当たっては、以下の2点に焦点をあてる。

第1に、愛知県綿織物生産額の全国的位置の推移を検討した後に、製品特性を明らかにすることである。続いて愛知県における知多地方の位置づけ及び製品特性を明らかにしたい。

第2に、生産形態について検討する。まず、愛知県の生産形態と全国的な生産形態とを比較することを通じて、愛知県の生産形態の特徴を浮き上がらせる。その後、知多地方の特徴を明らかにする。

以上の作業を通じて、日本産地綿織物業をその特性に応じて理解することが可能となり、知多地方の特徴を浮かび上がらせることができる。

資料は主に、『農商務省統計書』及び『愛知県統計書』を用いる³⁾。

第1節 綿織物生産額の分析

(1) 綿織物生産額ランキングの分析

愛知県綿織物生産の全国的な位置づけを確認するために、表1を用いて分析を行う。

表1は、第一次大戦前の1911年から1936年までの各期間における綿織物生産上位10府県の生産額及び全国生産額に占める割合を示している。ただし、統計の数値は、大紡績工場が織布業を合わせて操業するという、いわゆる紡織兼営織布を排除したものではないため、純粋な織布業者だけによる生産額ではない。とはいえ、全国的な綿織物産地の位置を概ね知ることができると考えられる⁴⁾。

表1 綿織物主要産出府県の変遷

順位	1911年			1916年			1923年			1927年			1930年			1934年			1936年		
	名前	価額	割合	名前	価額	割合	名前	価額	割合	名前	価額	割合	名前	価額	割合	名前	価額	割合	名前	価額	割合
1	大阪	26,673	18.0	大阪	125,716	41.9	大阪	153,980	22.2	愛知	190,330	28.2	愛知	117,287	23.6	愛知	221,013	27.1	愛知	234,919	28.6
2	愛知	17,771	12.7	愛知	31,281	10.3	愛知	108,536	15.8	大阪	162,303	22.4	大阪	116,962	23.5	大阪	197,358	24.2	大阪	206,606	23.4
3	三重	11,857	8.5	和歌山	28,799	9.5	和歌山	45,352	6.5	静岡	45,642	6.3	静岡	38,608	7.8	兵庫	70,048	8.6	静岡	71,582	8.1
4	和歌山	10,389	7.4	三重	14,317	4.7	静岡	41,455	6.0	兵庫	43,746	6.0	兵庫	35,448	7.1	静岡	52,956	6.5	兵庫	70,691	8.0
5	埼玉	8,399	6.0	兵庫	14,190	4.7	愛媛	39,735	5.7	愛媛	38,603	5.3	岡山	27,358	5.5	岡山	43,835	5.4	岡山	49,807	5.8
6	兵庫	8,097	5.8	愛媛	11,864	3.8	三重	35,136	5.1	岡山	34,365	4.7	愛媛	24,677	5.0	愛媛	39,488	4.8	愛媛	43,998	5.0
7	愛媛	7,646	5.5	岡山	10,944	3.6	兵庫	35,133	5.1	和歌山	27,724	3.8	三重	15,613	3.1	三重	25,236	3.1	三重	33,773	3.8
8	東京	6,106	4.4	静岡	10,482	3.4	岡山	30,882	4.4	三重	26,595	3.7	和歌山	14,261	2.9	和歌山	17,015	2.1	富山	18,166	2.1
9	岡山	5,871	4.2	埼玉	6,656	2.2	栃木	29,955	4.3	福岡	16,446	2.3	東京	11,060	2.2	徳島	16,217	2.0	岐阜	16,451	1.9
10	静岡	4,881	3.5	栃木	5,787	1.8	東京	24,379	3.5	東京	12,549	1.7	福岡	9,558	1.9	東京	15,902	1.8	東京	15,886	1.8
上位10県計		107,690	78.8		260,036	85.4		544,543	78.4		598,303	82.5		410,832	82.5		699,068	85.5		761,879	88.2
合計		140,234	100.0		304,490	100.0		694,319	100.0		725,389	100.0		498,021	100.0		816,362	100.0		883,342	100.0

資料) 各年次の『農商務統計表』、ただし1927年以降は『帝国統計年鑑』より筆者作成

3) 『農商務省統計書』と各府県統計書の数値は、食い違うケースが少ないことは、阿部武司の研究で明らかにされている。したがって、本研究で、『農商務省統計書』及び『愛知県統計書』とを接続して検討する作業は、信頼性を有するものと考えられる。阿部, 前掲書, 第1章。

4) 純粋な織布業者による生産額を推計した業績として、阿部武司の研究がある。阿部武司, 前掲書。

全国的な生産額は、1930年を除き順調な成長をみせる。その中でとりわけ生産額増大の著しいのが、1916年から1923年の期間と、1930年から1934年の期間である。前者は期間中に第一次大戦ブーム期が存在していた点が要因として考えられ、後者は1932年以降の対外為替低落による輸出増大がもたらした好景気が要因であったと考えられる。上位10府県をみても、1911年から1936年に至る間に、76.8%から86.2%とその比重を高めていたことが確認できる。両大戦間期を通じて、綿織物上位生産府県は有力産地としての地位を高めていたものと見られる。

次に府県別に生産の推移を検討する。まず大阪府と愛知県とが、期間を通じて生産額の割合が10%を超える全国的に有力な綿織物生産府県であったことが判明する。大阪府は、有力綿織物産地である泉南地域や泉北地域を有していた。第一次大戦ブーム期を迎えた1916年には、生産額は1911年と比べて4倍以上の約12億5700円にまで急上昇し、その割合も約19%から約41%へと高まった。それ以降、愛知県に1位の座を譲るものの生産額は伸び、割合も20%台前半を中心に推移した。一方愛知県は、知多地方や東三河地方、西三河地方という有力綿織物産地を有した、これも全国的な綿織物生産府県であった。愛知県の1911年の生産額は、大阪府に次ぐ2位に位置している。その後愛知県の生産額は、1916年から1927年の期間で大きく増大して、割合も1916年の10.3%から1927年には約26%を超え、その結果大阪を抜いて全国でトップの座についたのである。

次に、期間中に順位を下げるようになったのは、1911年3位の三重県と、同じく4位の和歌山県であった。これは恐らく他産地との競争に敗れ、その比重を下げるようになったのであろう。

反対に、期間中に順位を伸ばした府県として注目すべきは、兵庫県と静岡県である。まず兵庫県は、1911年に6位に位置していたものの、1923年から生産額及び割合を高め1936年には4位にランクインすることになった。静岡県は、1911年に10位であったが、第一次大戦ブーム期に急成長を遂げ、1923年の生産額は1916年のそれに比べ約4倍に達するに至り、順位も4位に上昇した。その後も上位を維持するかたちで推移し、1936年には3位に位置することになった。

このように両大戦間期における各府県の生産額は、多様な変容をみせた後、1930年代には愛知県・大阪府・兵庫県・静岡県が有力な綿織物生産府県として現れることとなった⁵⁾。

5) 各府県に存在する有力産地及びその産地についての代表的研究については以下の通り。大阪府：泉南地方で、代表的な研究として、阿部武司，前掲書，第2部。静岡県：遠州地方で、代表的な研究は、山崎広明，「両大戦間期における遠州綿織物業の構造と運動」，『経営史林』第6巻1・2号，1969年。兵庫県：播州地方で、代表的な研究は、阿部武司，前掲書，第3部。愛知県については、後に述べる。

(2) 綿織物生産額上位10府県の生産品目

本節では、有力綿織物産出府県の主力製品を、表2から検討したい。時期は第一次大戦ブーム期にあたり、一般に綿織物生産が活況を呈していたと言われる1919年を取り上げる。大阪府は、小幅白木綿と広幅白木綿の生産額及び割合がともに大きく、白木綿生産が中心の府県であったことが特徴といえる。これは和泉地方を中心に、白木綿生産を主力製品として発展したという研究史の指摘と一致する⁶⁾。加えて綿フランネル(略して綿ネルともいう)の比重が高いが、これは泉南地方を中心に展開したタオル産業を反映するものと考えられる⁷⁾。愛知県は、やはり小幅白木綿及び広幅白木綿の比重が大きく、大阪府と同じく白生地綿布を主力製品とした綿織物生産府県であったと言いうる。加えて、縞木綿生産の比重が大きい点も看取できる。他府県の動向を検討すると、和歌山県は綿フランネルの比重が約45%と大きい。兵庫県は、広幅白木綿と縞木綿の産額が大きい。このうち縞木綿は、後に五彩布と呼ばれる播州地方の主力製品となる⁸⁾。静岡県も縞木綿の産額が、2,500万円を超えて、全国比約23%を占めている。ただし静岡県の場合は、戦間期に別珍・コール天という加工度の高い綿布へとシフトしてゆくことになる。そのほか愛媛県は、縞木綿及び緋木綿の生産額が大きく、三重県は、広幅白木綿の生産額の大きさが目立っていた。

表2 綿織物生産額上位府県(1919年)

単位：千円、%

府県名	産額	小幅白木綿		広幅白木綿		縞木綿		緋木綿		縞木綿		織色木綿類		綿フランネル		タオル		数椀地		その他		
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%		
1 大阪府	284,820	27.5	71,247	50.5	148,109	36.9	3,667	3.4	6	0.0	1,437	4.9	2,805	9.1	41,309	39.9	8,243	46.4	7	0.1	7,991	6.0
2 愛知県	163,173	15.8	39,388	27.9	84,601	21.1	14,798	13.8	539	1.1	15	0.1	3,783	12.3	968	0.9	276	1.6	488	10.3	18,318	13.8
3 和歌山	76,986	7.4	174	0.1	19,538	4.9	366	0.3	-	0.0	11	0.0	69	0.2	46,393	44.8	294	1.7	8	0.2	10,135	7.6
4 兵庫県	59,386	5.7	4,192	3.0	32,277	8.0	10,125	9.4	147	0.3	6	0.0	207	0.7	2,295	2.2	2,522	14.2	34	0.7	7,581	5.7
5 静岡県	55,566	5.4	7,673	5.4	12,205	3.0	25,080	23.4	2,898	6.1	380	1.3	1,737	5.7	722	0.7	130	0.7	31	0.7	4,710	3.5
6 愛媛県	53,938	5.2	1,952	1.4	10,907	2.7	12,748	11.9	13,898	29.2	-	0.0	1,524	5.0	9,955	9.6	959	5.4	0	0.0	1,995	1.5
7 三重県	44,231	4.3	1,819	1.3	34,170	8.5	1,094	1.0	33	0.1	758	2.6	1,000	3.3	66	0.1	2,141	12.0	6	0.1	3,144	2.4
8 岡山県	42,011	4.1	705	0.5	16,765	4.2	1,451	1.4	14	0.0	-	0.0	1,414	4.6	-	0.0	301	1.7	101	2.1	21,260	16.0
9 埼玉県	34,244	3.3	3,422	2.4	426	0.1	10,729	10.0	2,558	5.4	1,099	3.8	5,499	17.9	-	0.0	7	0.0	1,310	27.6	9,196	6.9
10 東京都	27,783	2.7	278	0.2	13,697	3.4	4,851	4.5	512	1.1	80	0.3	2,209	7.2	67	0.1	-	0.0	-	0.0	6,088	4.6
上位10合計	842,138	81.5	130,850	92.8	372,695	92.9	84,909	79.2	20,605	43.3	3,786	13.0	20,247	65.9	101,775	98.2	14,873	83.7	1,985	41.8	90,418	68.0
全国計	1,033,832	100.0	140,998	100.0	400,976	100.0	107,239	100.0	47,537	100.0	29,143	100.0	30,722	100.0	103,622	100.0	17,770	100.0	4,750	100.0	132,972	100.0

資料)『第三十六次農商務統計表』大正10年

以上の検討から、比較的単純な工程のもとで生産される白木綿を主力製品としていたのは、大阪府、愛知県、そして三重県であった。一方で、製織上で比較的高い技術を必要とし付加価値の高い縞木綿や緋木綿、綿フランネルなどの生産比重が高い府県は、和歌山県、兵庫県、

6) 阿部武司, 前掲書, 第2部。

7) 中島茂, 『綿工業地域の形成』, 大明堂, 2001年。

8) 阿部武司, 前掲書, 第3部。

静岡県、愛媛県、埼玉県であったことが判明する。

(3) 愛知県内における生産品目の検討

愛知県は、白木綿の生産が中心の府県であることが先の検討から明らかとなった。続いて表3を用いて、愛知県内の郡別に分類して、主力製品の違いを検討したい。まず表から、知多郡の生産額が5,000万円を超えており、割合も30%を超えていることから、知多郡は愛知県内で屈指の綿織物生産地域であったことが判明する。次に、主力生産品目を見ると、白木綿生産の比重の高さが一際目立ち、先述の愛知県全体の特徴と一致している。特に小幅白木綿は、約54%を占めており県内でも圧倒的比重を占めている。つまり本稿で対象地域とする愛知県知多地方は、全国的に見て有数の白木綿産地であったと見てよいだろう。

表3 愛知県における主要綿織物生産地域（1919年）

単位：千円、%

府県名	産額	小幅白木綿		広幅白木綿		縮木綿		緋木綿		縮木綿		織色木綿類		総フランネル		タオル		蚊帳地		その他		
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	
1 知多	50,235	30.8	21,399	54.3	28,836	34.1		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	0	0.0
2 名古屋	34,802	21.3	326	0.8	25,044	29.6	313	2.1	54	10.0		0.0	51	1.3	840	86.9	7	2.5		0.0	8,167	44.6
3 愛知	17,958	11.0	2,596	6.6	13,254	15.7	843	5.7	275	51.0	5	33.3	457	12.1	24	2.5	27	9.8		0.0	477	2.6
4 中島	12,869	7.9	890	2.3	2,189	2.6	4,945	33.4	23	4.3	1	6.7	1,538	40.7		0.0	19	6.9		0.0	3,264	17.8
5 宝飯	7,289	4.5	9	0.0	52	0.1	5,614	37.9	1	0.2		0.0	1,519	40.2	3	0.3	43	15.6	22	4.5	26	0.1
6 岡崎	6,261	3.8	2,302	5.8	3,519	4.2	24	0.2		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	416	2.3
7 額田	6,182	3.8	3,947	10.0		0.0	126	0.9		0.0	9	60.0	100	2.6		0.0		0.0		0.0	2,000	10.9
8 碧海	5,781	3.5	2,366	6.0	3,204	3.8	41	0.3		0.0		0.0	9	0.2		0.0	89	32.2	64	13.1	8	0.0
9 幡豆	4,993	3.1	2,475	6.3	2,336	2.8	45	0.3		0.0		0.0	5	0.1		0.0	20	7.2		0.0	112	0.6
10 丹羽	4,918	3.0	262	0.7	3,444	4.1	598	4.0	2	0.4		0.0	1	0.0		0.0		0.0	401	82.3	210	1.1
上位10合計	151,278	92.7	36,572	92.9	81,878	96.8	12,549	84.8	355	65.9	15	100.0	3,680	97.3	867	89.7	205	74.3	487	100.0	14,680	80.1
愛知県合計	163,173	100.0	39,388	100.0	84,601	100.0	14,798	100.0	539	100.0	15	100.0	3,783	100.0	967	100.0	276	100.0	487	100.0	18,319	100.0

注) 愛知県内で綿織物生産額上位10の郡を取り上げた。
資料) 『愛知県統計書』大正8年版

さて他の地域に目を転じると、名古屋市は、知多地方と同じく広幅白木綿生産が主力製品であることがわかる。これはおそらく名古屋市を生産拠点とする紡織兼営織布の生産動向を反映したものであろう。次に、三河地方の西側に位置し、一般に三州地域と分類される、岡崎、額田、碧海は小幅白木綿生産が主力製品である。一方、東三河地域に位置する宝飯郡は、縮木綿生産が盛んである。さらに尾西地域に位置する中島郡は、縮木綿生産が盛んである⁹⁾ことが判明する。

つまり、全国的に白木綿生産の比重の高いと特徴づけられる愛知県では、知多郡と名古屋市とが生産の中心を担っていたのである。

9) 知多、三州、東三河、尾西、という綿織物地域の分類は、基本的に阿部武司による分類に従っている。
阿部武司, 前掲書, 第1部。

第2節 綿織物生産形態の分析

(1) 織物生産形態の検討(機業戸数、職工数)

本節では、愛知県の全国的に見た生産形態の特徴を明らかにする。表4は、1919年における主な綿織物生産府県の生産形態を示している。当時の統計では、「職工10人以上」、「職工10人以下」、「織元」、「賃織」と分類されている。「職工10人以上」及び「職工10人以下」は、1ヶ所に労働者を集めて、独立経営として生産する形式で、力織機を導入するか否かで「工場」あるいは「マニファクチュア」と名づけられる。次に「織元」とは、織物生産を農家に委託する問屋制商人を指す。「賃織」は、基本的にその問屋制商人の指示のもとで外業部として織物生産する賃織農家を言う。

表4 織物生産形態(1919年)

(1) 生産形態別の機業戸数・職工数

	府県名	機業戸数(戸)					職工数(人)				
		職工 10人以上	職工 10人未満	織元	賃織	小計	職工 10人以上	職工 10人未満	織元	賃織	小計
1	大阪	609	143	87	1,071	1,910	43,593	689	65	1,984	46,331
2	愛知	617	1,537	587	17,502	20,243	35,898	5,476	966	28,680	71,020
3	和歌山	109	189	264	8,344	8,906	7,835	652	746	9,363	18,596
4	兵庫	215	1,386	207	1,715	3,523	12,658	3,048	822	4,033	20,561
5	静岡	436	318	128	1,004	1,886	12,958	1,775	519	3,025	18,277
6	愛媛	120	2,689	385	20,573	23,767	9,569	3,047	1,640	22,944	37,200
7	三重	71	2,408	27	1,242	3,748	8,425	3,102	49	1,785	13,361
8	岡山	147	288	131	1,857	2,423	10,860	1,493	318	2,090	14,761
9	埼玉	387	12,978	525	28,997	42,887	6,167	18,354	1,752	35,721	61,994
10	東京	226	1,880	467	7,434	10,007	11,690	6,730	1,976	9,919	30,315
	上位10合計	2,937	23,816	2,808	89,739	119,300	159,653	44,366	8,853	119,544	332,416
	知多郡	22	3	19	240	284					
	全国計	6,834	277,079	14,898	256,914	555,725	279,050	359,901	31,892	349,772	1,020,615
生産形態別割合(%)											
	上位10合計	2.5	20.0	2.4	75.2	100.0	48.0	13.3	2.7	36.0	100.0
	愛知県	3.0	7.6	2.9	86.5	100.0	50.5	7.7	1.4	40.4	100.0
	知多郡	7.7	1.1	6.7	84.5	100.0					
	全国計	1.2	49.9	2.7	46.2	100.0	27.3	35.3	3.1	34.3	100.0

資料)【第三十六次農商務統計表】大正10年、【愛知県統計書】1919年

(2) 一戸あたり職工人数(人)

	府県名	職工 10人以上	職工 10人未満	織元	賃織	小計
1	大阪	71.6	4.8	0.7	1.9	24.3
2	愛知	58.2	3.6	1.6	1.6	3.5
3	和歌山	71.9	3.4	2.8	1.1	2.1
4	兵庫	58.9	2.2	4.0	2.4	5.8
5	静岡	29.7	5.6	4.1	3.0	9.7
6	愛媛	79.7	1.1	4.3	1.1	1.6
7	三重	118.7	1.3	1.8	1.4	3.6
8	岡山	73.9	5.2	2.4	1.1	6.1
9	埼玉	15.9	1.4	3.3	1.2	1.4
10	東京	51.7	3.6	4.2	1.3	3.0
	上位10合計	54.4	1.9	3.2	1.3	2.8
	全国計	40.8	1.3	2.1	1.4	1.8

「職工10人以上」の生産形態をとる府県として機業戸数をみると、大阪府、愛知県、静岡県、埼玉県を挙げることができる。さらにこの内で、大阪及び愛知は、1戸あたり職工人数は50人を超えている。つまり大阪及び愛知は、全国に先駆けてマニュあるいは工場の設立が進んだと考えられ、しかもその規模は大きかった。次に「職工10人未満」をみれば、埼玉県が約13000戸と目だって多い。しかも1戸あたり職工人数は1.4人と少ないことから、おそらく零細なマニュあるいは工場が広く分布していたのであろう。「織元」の多い府県は、愛知県、愛媛県、埼玉県、東京である。特に前の三者は、「賃織」も多いことから、問屋制家内工業が広く展開していたものとみられる。

（2）織物生産形態の検討（織機台数）

それでは、以上の生産形態別に分類した場合、力織機の普及はどの程度進んでいたのだろうか。表5で検討する。

表5 各府県における織物生産形態別の織機台数（1919年）

	府県名	織機台数									
		職工 10人以上		職工 10人未満		織元		賃織		小計	
		力織機	手織機	力織機	手織機	力織機	手織機	力織機	手織機	力織機	手織機
1	大阪	45,717	2,763	530	425	110		495	1,599	46,852	4,787
2	愛知	22,470	6,580	528	5,147	105	631	8,941	22,530	32,044	34,888
3	和歌山	5,750	805	1	649		375		9,332	5,751	11,161
4	兵庫	9,480	1,091	273	2,467	793	81	580	3,257	11,126	6,896
5	静岡	14,475	245	2,652	762	594	141	3,193	1,228	20,914	2,376
6	愛媛	7,017	499	59	3,621	5	232	50	22,931	7,131	27,283
7	三重	7,277	850	50	2,693		24	102	1,157	7,429	4,724
8	岡山	7,051	2,247	167	1,206	41	154	290	1,809	7,549	5,416
9	埼玉	2,271	508	9,031	7,768	458	252	19,734	14,284	31,494	22,812
10	東京	6,051	1,499	1,226	4,324	479	666	251	9,599	8,007	16,088
	上位10合計	127,559	17,087	14,517	29,062	2,585	2,556	33,636	87,726	178,297	136,431
	知多郡									12,634	165
	全国計	208,529	52,244	25,244	309,258	4,783	19,365	39,145	293,864	277,701	674,731

資料)「第三十六次農商務統計表」大正10年、「愛知県統計書」1919年

まず「職工10人以上」欄をみると、力織機台数が多いのは、大阪府、愛知県、静岡県、兵庫県の順となる。先の検討からわかるように、機業戸数についてもかなりの展開をみせていたことから、大阪府、愛知県、静岡県、兵庫県では、全国に先駆けて比較的大規模な力織機工場が出現して、織物生産府県としての地位を高めていったのであろう。次に「職工10人未満」欄をみると、埼玉県において力織機台数及び手織機双方の台数が比較的多い点が看取できる。つまり埼玉県では、比較的規模の小さい力織機工場とマニュとが混在していた。「織元」欄に目を転じると、力織機台数が多い府県は、兵庫県、静岡県、埼玉県、東京である。他方、手織機台数が多いのは、愛知県、東京である。つまり、「織元」が力織機工場を経営するケー

スは、兵庫県、静岡県、埼玉県で多く見られ、マニユを経営するケースは愛知県でこれまた多く見られた。東京では、その双方が見られたということになろう。最後に「賃織」欄を検討する。「賃織」形態で力織機台数が多い府県は、埼玉県、愛知県、静岡県となる。これは力織機を導入した工場を、問屋が賃織工場として組織する形態が広く普及していたことを示している。他方手織機台数の多い府県として、愛知県、愛媛県、埼玉県が看取される。これは問屋制家内工業が、第一次大戦期においても広く残存していることを示している。

おわりに

以上統計書に基づいた分析から、生産額と生産形態それぞれについて、各府県の類型分けを試みれば以下のようなようになろう。

① 生産品目による類型把握

類型（Ⅰ） 単純な白木綿を主として生産する府県。この例にあたるのは、大阪府、愛知県、三重県である。

類型（Ⅱ） 縞木綿、緋木綿、綿フランネルという比較的付加価値の高い製品の生産が盛んな府県。事例として、和歌山県、兵庫県、静岡県、愛媛県、埼玉県を挙げることが出来る。

② 生産形態による類型把握

類型（A） 大規模な力織機工場が地域の主たる位置を占める府県。大阪府がそれにあたる。やや規模が小さいが、兵庫県、静岡県もそれに含まれる。

類型（B） 問屋制家内工業が広く残存している府県。愛媛県がそれにあたる。

類型（C） 力織機を導入した工場を賃織として組織する形態が、広く普及した府県。本稿ではこれを下請制と呼ぶ¹⁰⁾。愛知県や埼玉県がこれにあたる。

ただし、愛知県は類型（A）と類型（B）、埼玉県は類型（B）の性格をも有している。

10) 下請制と名づける要因及びそれに関わる説明は、橋口勝利、博士論文『両大戦間期知多綿織物業の発展』（2005年）序章を参照。

図 主要綿織物生産府県の類型把握

	(A) 大規模（独立） 工場	(B) 問屋制 家内工業	(C) 下請制
類型（Ⅰ） 単純な製品 （白木綿）	大阪 三重		愛知
類型（Ⅱ） 高付加価値製品 （縞木綿・餅・ 綿ネルなど）	兵庫 静岡	愛媛 和歌山	埼玉

以上の類型分けを基に、各府県の特徴を述べる。

まず大阪府は、比較的単純な白木綿を、力織機を導入した工場生産する府県であったことがわかる。これは、高い技術を要しない綿布を生産するにあたって、力織機を大量導入した大規模工場で少品種大量生産を行うことで、規模の経済性を享受するという合理的選択に基づいていたものと推察できる¹¹⁾。静岡県や兵庫県も力織機工場が普及した工場であるが、その規模が大阪府に比べて小規模だった要因は、両者の主力製品が縞木綿という付加価値の高い製品だったからであろう¹²⁾。

次に愛媛県は、付加価値の高い綿布を、主として問屋制家内工業形態で生産していた。これは独特の技術を要する綿布を生産していたがゆえに、農家手織の技術の活かされる余地が大きく残されていたからだと考えられる。

このように各府県の生産形態は、その地域の製品特性に合理的に選択されていたと評価できるのである。

それでは、本稿で対象とした知多地方を含む愛知県はどうであろうか。愛知県は、主力製品は白木綿が多く、生産形態は埼玉県と同じく、工場制工業・マニファクチュア・問屋制家内工業そして下請制が広く普及する府県であった。それを踏まえて、愛知県の特徴を述べる。

- ① 工場制工業の展開の中で、マニファクチュアや問屋制家内工業、下請制が並存していたことが指摘できる。つまり、製品特性の中で工場制工業か問屋制家内工業かという選択は現れるが、それはトレード・オフの関係にあるのではない。同一地域内において

11) 阿部武司によれば、このような条件下で、大阪府泉南地域及び泉北地域に排出した大規模な機業家を「産地大経営」と呼んでいる。阿部武司，前掲書，1989年。

12) 阿部武司，前掲書。第3部。

も互いに並存できる関係にあったのである。従って、各機業家が、それぞれの経営戦略、要素賦存状況を加味して、生産形態を選択していたものと考えられる。

- ② 都市商人(ここでは名古屋商人)に加えて、地域商人の役割の大きさが指摘できる。いうまでもなく、生産者が自立性を高める工場制工業とは異なり、問屋制家内工業や下請制という生産形態が普及するにあたって、原料供給と製品買入れ、そして市場対応という役割を担う問屋商人の重要性は高い。特に愛知県や埼玉県における賃織の広範囲な普及は、それを組織する地域の問屋商人の市場対応力や賃織網の組織力が高かったことを想起させる¹³⁾。
- ③ 賃織工場を組織する問屋が組織する下請制という生産形態が、広く普及している点である。埼玉県の場合は、主力製品が縞木綿であったことから、問屋が生産を外業部委託する形態が普及しやすかったと考えられる。同じ要因で力織機工場についても、問屋は外業部として組織したものと考えられる。特に、愛知県の場合、広幅白木綿の生産が大きいことに加えて、白木綿及び縞木綿生産が大きな比重を占めている点に注目したい。とりわけ本稿で対象地域とした愛知県知多地方は下請制が広く展開した地域であり、小幅白木綿生産の比重が大きかった。つまり、知多地方は、下請制の普及した地域として特徴づけることができるのである¹⁴⁾。

13) 埼玉県入間地方における問屋制家内工業の展開及びそこでの問屋商人の活動については谷本雅之が指摘している。谷本雅之、『日本における在来的経済発展と織物業』、名古屋大学出版会、1998年。

14) 愛知県知多地方の下請制を分析した論文として、橋口勝利、「両大戦間期知多綿織物業産地の展開と生産組織—問屋制から下請制へ—」日本史研究、第504号、2004年8月。